

## 2024 年度 授業計画(シラバス)

学 科	言語聴覚士学科(昼夜間部)		科 目 区 分	専門分野	授業の方法	講義
科 目 名	器質性構音障害		必修/選択の別	必修	授業時数(単位数)	30 (1) 時間(単位)
対 象 学 年	2年生		学期及び曜時限	前期 6,7限他	教室名	402
担 当 教 員	井之川真紀 橋田直	実務経験と その関連資格				
《授業科目における学習内容》						
器質性構音障害の原因、病態、評価、治療法について理解できる。 疾患特有の問題点、他職種との連携について理解できる。						
《成績評価の方法と基準》						
定期試験100%						
《使用教材(教科書)及び参考図書》						
テキスト:「言語聴覚療法シリーズ8 器質性構音障害」建帛社						
《授業外における学習方法》						
復習をしてください(特に頭頸部の解剖)						
《履修に当たっての留意点》						
他の教科(解剖学、音声学、嚥下障害学など)と関わっています。それを踏まえて講義を受けてください。						
授業の 方法	内 容			使用教材	授業以外での準備学習 の具体的な内容	
第1回	講義形式	授業を通じての到達目標	頭頸部の正常解剖を学び、描けるようになる	教科書、配布資料	復習(頭頸部)	
		各コマにおける授業予定	頭頸部の正常解剖について			
第2回	講義形式	授業を通じての到達目標	頭頸部の手術とそれによる解剖学的変化を学ぶ	教科書、配布資料	復習(頭頸部)	
		各コマにおける授業予定	頭頸部癌の手術とその解剖学的変化について			
第3回	講義形式	授業を通じての到達目標	頭頸部癌の治療を知る	教科書、配布資料	復習(頭頸部)	
		各コマにおける授業予定	頭頸部癌の治療(手術、薬物療法、放射線療法)について			
第4回	講義形式	授業を通じての到達目標	器質性構音障害の評価法を理解する	教科書、配布資料	復習	
		各コマにおける授業予定	口腔がん術後の構音評価について			
第5回	講義形式	授業を通じての到達目標	100音節発語明瞭度検査を実施できる	教科書、配布資料	復習	
		各コマにおける授業予定	100音節発語明瞭度検査を実施する			

授業の方法		内 容		使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容
第6回	講義形式	授業を通じての到達目標	構音訓練を理解する	教科書、配布資料	復習
		各コマにおける授業予定	器質性構音障害の構音訓練について		
第7回	講義形式	授業を通じての到達目標	構音訓練の治療計画を立てる	教科書、配布資料	復習
		各コマにおける授業予定	グループワーク		
第8回	講義形式	授業を通じての到達目標	チームアプローチを知る	教科書、配布資料	復習
		各コマにおける授業予定	口腔がんに関わる多職種連携について		
第9回	講義形式	授業を通じての到達目標	器質性構音障害と関わる嚥下障害を理解する	教科書、配布資料	復習
		各コマにおける授業予定	頭頸部癌の嚥下障害について		
第10回	講義形式	授業を通じての到達目標	全体の復習をし理解する	教科書、配布資料	復習
		各コマにおける授業予定	まとめ		
第11回	講義形式	授業を通じての到達目標	口蓋裂の評価(形態と機能の評価 哺乳摂食嚥下評価 共鳴発声構音評価)について理解し、その概要を説明できる	テキスト 配布資料(適宜) 確認問題(適宜)	事前学習としてテキスト該当頁を一読しておく
		各コマにおける授業予定	口蓋裂の評価(形態と機能の評価 哺乳摂食嚥下評価 共鳴発声構音評価)について学ぶ		
第12回	講義形式	授業を通じての到達目標	口蓋裂への介入(摂食嚥下機能への対応)について理解し、その概要を説明できる	テキスト 配布資料(適宜) 確認問題(適宜)	事前学習としてテキスト該当頁を一読しておく
		各コマにおける授業予定	口蓋裂への介入(摂食嚥下機能への対応)について学ぶ		
第13回	講義形式	授業を通じての到達目標	口蓋裂への介入(鼻咽腔閉鎖機能の評価、対応)について理解し、その概要を説明できる	テキスト 配布資料(適宜) 確認問題(適宜)	事前学習としてテキスト該当頁を一読しておく
		各コマにおける授業予定	口蓋裂への介入(鼻咽腔閉鎖機能の評価、対応)について学ぶ		
第14回	講義形式	授業を通じての到達目標	口蓋裂への介入(乳児期・幼児期・学童期の言語管理 チームアプローチ)について理解し、その概要を説明できる	テキスト 配布資料(適宜) 確認問題(適宜)	事前学習としてテキスト該当頁を一読しておく
		各コマにおける授業予定	口蓋裂への介入(乳児期・幼児期・学童期の言語管理 チームアプローチ)について学ぶ		
第15回	講義形式	授業を通じての到達目標	口蓋裂への介入(心理社会側面へのアプローチ)について理解し、その概要を説明できる	テキスト 配布資料(適宜) 確認問題(適宜)	事前学習としてテキスト該当頁を一読しておく
		各コマにおける授業予定	口蓋裂への介入(心理社会側面へのアプローチ)について学ぶ		